

令和元年度病虫害発生予察情報 発生予報第3号(6月)

令和元年6月28日
発表：福島県病虫害防除所

1 普通作物

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (葉いもち)	全 域	平年並	平年並	①天候予報(6月27日発表1か月予報)によると、向こう1か月の降水量は平年より多いと予想されている(+) ②BLASTAMによる感染好適条件の出現は少ない(-)。	①補植用置苗は直ちに処分する。 ②発生の早期発見、早期防除に努める。 ③長雨の場合や常発地では、適期防除に努める。 ④気温が低く、降水量が多く推移した場合には発生が多くなるため注意する。
	紋枯病	全 域	平年並	やや多い	①天候予報によると、7月上旬の気温はほぼ平年並と予想されている(±) ②前年の発生ほ場割合は平年より高かった(+)	①前年発生の見られたほ場では菌核が残存しているため、注意する。 ②窒素肥料の多用を避ける。 ③薬剤を散布する場合は、穂ばらみ期に実施する。
	イナゴ類	全 域	—	平年並	6月下旬の幼虫の発生ほ場割合は平年並だった(±)。	発生が目立つ場合は、7月上旬までに薬剤防除を行う。
	斑点米カメムシ類	全 域	—	やや多い	①6月下旬の畦畔雑草すくい取り調査によると、斑点米カメムシ類の発生地点割合が平年よりやや高かった(+) ②天候予報によると、向こう1か月の気温はほぼ平年並と予想されている(±)。	畦畔や水田周辺のイネ科雑草の穂は斑点米カメムシ類の増殖源になるので、草刈りを励行し出穂10日前頃までに終了させる。

2 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	中通り北部 中通り南部 会津	— — —	平年並 やや少ない やや少ない	新梢葉での発生ほ場割合は中通り北部で平年並(±)、中通り南部、会津で平年よりやや低かった(—)。	
	褐斑病	全域	やや早い	平年並	発生ほ場割合は平年並であったが(±)、会津で発生が確認された。	発生が確認された場合には、発生初期から薬剤散布を徹底する。
	黒星病	全域	—	平年並	新梢葉での発生は、中通り、会津ともに平年並に確認されなかった(±)。	発病部位は、徹底して除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
	キンモンホソガ	全域	—	平年並	中通り、会津ともに発生ほ場割合は平年並であった(±)。	
モモ	灰星病	中通り北部	—	平年並	発生は平年並に確認されなかった(±)。	
	せん孔細菌病	中通り北部	—	やや多い	①新梢葉での発生ほ場割合は福島地域、伊達地域ともに平年よりやや高かった(+) ②果実での発生ほ場割合は福島地域では平年並(±)、伊達地域では平年よりやや低かった(—) ③天候予報によると、降水量は平年より多いと予想されている(+)	発病部位は、徹底して除去し、園外に持ち出して適切に処分する。 晩生種については、地方の防除暦に従って薬剤散布を行う。 (防除情報参照)
	モモハモグリガ	中通り北部	—	やや多い	発生ほ場割合は、福島地域では平年よりやや高く(+)、伊達地域では平年並であった(±)。	7月2半旬頃に防除を行い、次世代の密度低下を図る。

ナシ	黒星病	中通り 浜通り	— —	やや多い 平年並	①新梢葉での発生ほ場割合は中通りでやや高く(+)、浜通りで平年並であった(±)。 ②天候予報によると、降水量は平年より多いと予想されている(+)	発病部位は、徹底して除去し、園外に持ち出して適切に処分する。 地方の防除暦に従って、散布間隔が開かないよう予防散布を実施する。 (防除情報参照)
	カメムシ類	全域	—	平年並	果実被害は平年同様確認されなかった(±)。	飛来が確認された場合には、早めに防除する。
果樹共通 (中通り： リンゴ、 モモ、ナシ 会津： リンゴ 浜通り： ナシ)	アブラムシ類	全域	—	平年並	新梢寄生ほ場割合は各地域ともに平年並であった(±)。	発生が多い場合は、アブラムシ類に効果の高い殺虫剤を選択して散布する。
	ハダニ類	全域	—	平年並	新梢寄生ほ場割合は各地域ともに平年並であった(±)。	要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、殺ダニ剤を散布し、防除を実施する。

◎夏季せん定等の新梢管理により、通風・採光を良好にし、薬液がよくかかるように心がけましょう。

3 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト（被覆栽培）	灰色かび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	葉かび病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	①多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。 ②葉かび病抵抗性（cf-9）品種でも発病するレースが確認されているので注意する。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	①ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 ②施設開口部をネット被覆していない場合、発生に特に注意すること。
	コナジラミ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	アザミウマ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	①ほ場への侵入を防ぐため開口部を防虫ネットで被覆する。 ②ほ場をよく観察し、発生初期から防除を徹底する。
	ハモグリバエ類	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（-）。	蔓延すると防除が困難なので、発生初期から防除を実施する。
夏秋キュウリ（露地栽培）	べと病	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年よりやや高かった（+）。	多湿条件が続くと発病しやすくなるので、発生初期から防除を実施する。
	うどんこ病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	蔓延すると防除が困難なので、発生初期から防除を実施する。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	ハダニ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	①低密度時から防除を徹底する。 ②抵抗性の発達が懸念されるため、防除薬剤の選択に注意する。

キク（露地栽培）	白さび病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	①多湿条件が続くと発病しやすくなるので、予防散布に努める。 ②品種により発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底する。
	アブラムシ類	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年よりやや高かった（+）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）が、一部で寄生葉率の高いほ場が見られた。	①低密度時から防除を実施する。 ②抵抗性の発達が懸念されるため、防除薬剤の選択に注意する。
	アザミウマ類	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年よりやや高かった（+）。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を徹底する。
	ハモグリバエ類	全 域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、よりやや低かった（-）。	上位葉での発生に注意し、低密度時から防除を実施する。
リンドウ ※過去4年間の平均値と比較	葉枯病	全 域	—	例年並	発生ほ場割合は、例年並であった（±）。	多湿条件で発生が多くなるので、予防散布に努める。
	ハダニ類	全 域	—	例年並	発生ほ場割合は、例年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。
	リンドウホソハマキ	全 域	—	例年並	発生ほ場割合は、例年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。
野菜・花き共通	タバコガ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった。	生長点付近をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

<p>夏秋トマ ト（被覆 栽培）</p>	<p>■トマトかいよう病 苗、ほ場での発生を確認しています。本病は細菌病であり、種子や土壌中の病原菌が第一次伝染源となり、その後、芽かきや収穫、誘引などの管理作業による二次伝染により被害拡大します。作業手袋やハサミ等をこまめに消毒し、被害拡大を防ぐようにしてください。万が一ほ場で発生した場合は、発病株を速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分してください。</p> <p>■トマトすすかび病 巡回調査ですすかび病の発生が確認されています。すすかび病は葉かび病と病徴が類似しており、肉眼での判別は困難です。これらの病害は、多湿条件下で発生が助長されるので、換気を十分に行うとともに少発生時から防除を行ってください。また、薬剤防除を行う場合には、いずれの病害であるかを確認して薬剤を選択してください。</p> <p>■タバココナジラミと黄化葉巻病 2006年にタバココナジラミ・バイオタイプQおよびタバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病ウイルス（TYLCV）がトマトで確認されました。タバココナジラミ及び黄化葉巻病の定着している施設等（周年栽培又は冬期加温施設で過去に発生した施設）では、タバココナジラミの侵入・脱出防止を心がけ、ほ場内での発生密度が高くなるように適切な防除を行ってください。 また、未定着地域においても、購入苗等により持ち込むおそれがありますので注意が必要です。</p>
<p>夏秋キュ ウリ</p>	<p>■褐斑病及び炭疽病 6月の調査で炭疽病の発生が確認されました。褐斑病及び炭疽病は、高温多湿条件下で発生が助長され、多発すると薬剤防除の効果が低く、病勢の進展を止めることが困難になります。予防散布に努め、発病葉は見つけ次第除去してください。また、これら病害の初期病徴は酷似しており、肉眼で区別することは困難です。薬剤防除を行う場合は、いずれの病害であるかを確認して薬剤を選択してください。</p>
<p>野菜・花 き共通</p>	<p>■ウイルス病（アブラムシ類、アザミウマ類媒介による） 各作物のアブラムシ類、アザミウマ類の発生が多くなる時期ですが、これらが媒介するキュウリモザイクウイルス（CMV）や、トマト黄化えそウイルス（TSWV）等の各種ウイルス病の発生が懸念されます。ウイルスの感染を防止するため、防虫ネットや光反射資材の設置等による飛来防止対策と発生初期からの防除を徹底してください。また、ウイルスの感染株を治療することはできないので、モザイク症状等の病徴が見られる株は、可能な限り抜き取って適切に処分してください。 キュウリでは、CMV、WMV及びZYMV等のウイルスの重複感染により急性萎凋症が発生する場合がありますので注意してください。</p>

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病害虫防除所ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> をご覧ください。

お問い合わせは TEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。

◆福島県では6月10日から9月10日まで2019年度農薬危害防止運動を実施しています◆
農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう。